ならず、今碁盤の筋のうへに石をならべ、その筋を順に石をとる、筋違にはとらぬ事あり、これらも亂碁の遺法か、

亂碁例

〔圓融院扇合〕宮の御方に、うへおはしまして、らごとらせ給ひて、かたせ給へるかちわざ、六月十六日に、うへせさせ給ふ、

〔拾遺和歌集十七雜秋〕天祿四年〇天延元年五月廿一日、圓融院のみかど、一品宮にわたらせ給て、らんごとらせ給けるに、まけわざを七月七日に、かの宮より内の大ばん所にたてまつられける、扇に

はられて侍けるうすものにをりつけて侍ける、　中務

天河かはべすゞしきたなばたに扇の風を猶やかさまし

〔續世繼七あり す 川〕こ中宮の姫宮、二條の大宮とて、女院の御弟おはしまし、、令子内親王とて、齋院になり給て、後には鳥羽院の御母にて、皇后宮に成給て、大宮にあがらせ給にき、いと心にくき宮のうちと聞侍りしは、侍從大納言、成道三條の大臣など、まだげらうにおはせし時、月のあかゝりける夜、樣やつして、みやばらを忍びて、立聞給けるに、〇略中うちに源氏よみて、榊こそいみじけれ、葵はゑか有など聞えけり、だいばん所の方には、さゞれ石まきて、らんご拾ふおとなどきこえけるをぞ、昔のみや原もかくや有けんと侍りける、

〔增鏡五内野の雪〕みかど、〇後深草ましておさなくおはしませば、はかなき御あそびわざよりほかいとなみなし、攝政殿〇藤原實經さへわかくものし給へば、よるひるさぶらひたまひて、女房のなかにまじりつゝ、らんご、貝おほひ、てまり、へんつきなどやうの事どもを、おもひ〳〵にしつゝ、日をくらし給へば、さぶらふ人々も、うちとけにくゝ、こゝろづかひすめり、

〔看聞日記〕應永廿九年三月十九日、退藏庵洪得喝食參、蔭藏主相伴被來、〇略中有酒盛、廣時廣輔庭上候、歌舞其興不少、秉燭事了、洪得召留、面々遊戯、亂碁等拾之、